第 50 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	青木・稲田ゼミⅡ	チーム名	チーム A
タイトル	オーバーキャパシティによる観光公害について		
テーマ群	d)国際経済　e)産業・企業		
メンバー	[illegible]		
研究計画内容	【研究の背景】 私たちのグループは、現在はコロナウイルスの影響で訪日外客数が大幅に減少しているものの、これまで日本経済を支えてきた観光産業に興味を持ちました。コロナ禍がおこる前は、観光による公害が世界中で問題となっておりました。今は冷静に観光産業戦略を考える良い機会と思います。ですから、今回は私たちは、観光公害に対するどのような対策があるのかを研究しました。 【研究内容】 私たちは、観光公害の中でもオーバーキャパシティについて焦点を当てて調べました。オーバーキャパシティとは、日本にやってきた外国人観光客が京都などの特定の地域に偏って観光をすることで、交通状況の悪化や観光地のホテル代が高騰してしまい、その観光地に住んでいる市民の生活に支障が出ることです。今回は、日本の観光地の中でも特に訪日外国人観光客が多い関東地方の「鎌倉」と関西地方の「京都」の二つに焦点を当て、比較していきながら調べました。同じ日本の観光地ですが、その対策内容はかなり異なっており地域独自のマナー対策を知ることができました。また、実際に国内でおこなわれているマナー対策について鎌倉と京都のほかに北海道や沖縄の二つも調べました。そして、最後は海外で実際におこなわれ成功したマナー対策についても調べ研究しました。 【研究から期待されること】 今回の研究では、海外で成功しているマナー対策も調べたことから、日本での新たなマナー対策を考えるうえで参考になる。また、来年の 2021 年 7 月 23 日から東京オリンピックが開催される予定なので、それに向けた対策を考えることも可能である。		